

## ◇ 国 語

国 5-1～国 5-19 まで 19 ページあります。

第一問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

ここで改めて考えてみたい。給食とはいったいなにか。

それは、食事時間を挟んで関係者が滞在する必要のある施設、たとえば工場、病院、学校で、まとまった量の食を配分して集団で食すること、またはその食べものことである。飲食店では、食べる人は食べものをその場で購入しなければならぬ。しかし、給食のメニューは原則として選べないし、代金もイツカツ<sup>A</sup>払いで財布は必要ない。一般的に給食にはレジやメニュー表が存在しない。時間も場所もメニューも原則として決まっている。給食の特徴は「強制」であり、選択肢の少なさである。

給食は、主として、工場給食、病院給食、学校給食の三形態に分類される。日本の場合、工場給食は、一八七三年に群馬県の富岡製糸場で、病院給食は、一九〇二年に東京市の聖路加病院で、学校給食は後述するように山形県鶴岡町（現在の鶴岡市）忠愛小学校で始まったとされている（岩崎「悲しみの米食共同体」）。もちろん、それ以前にも類似の形態があっただろうし、軍隊や会社の食事も給食と言える場合もあるかもしれない。本書は、それらのなかでも日本で最も経験者が多い学校給食、とくに小学校の給食を中心に扱いたい。以後、とくに断りをいれないかぎり、本書では学校給食のことを給食と呼ぶ。

給食について一通り定義を終えたところで、その<sup>三</sup>基本的性格を三点おさえておきたい。

第一に、家族以外の人たちと食すること。

親ではない大人と、兄弟姉妹ではない子どもと食するという空間の ア は、もつと強調されてよい。現にドイツや中国ではつい最近まで給食は存在せず、ドイツは学校では軽食だけで一四時頃に学校から帰り家族と遅めの昼食を食べ、中国は家に帰るか学校で購入して昼食を食べた。他方で、給食は家族から切り離された食事だ。弁当は家の状況を映し出す鏡であるが、給食には家の状況は反映されない。各生徒の家庭の内実が一旦「棚上げ」される場所である。

とくに、片付けと掃除も子どもが行なう日本の給食は棚上げ効果抜群だ。ニューヨーク在住のドキュメンタリー映像作家、佐竹敦子の「日本の学校給食―ただ食べるだけじゃない!」という英語字幕の映像がネット上にアップされ、二〇一八年七月現在二〇〇〇万回以上の閲覧を得ているが、そのコメント欄には「信じられない」「これぞ真の教育だ」「なんて素敵なお国だろう」「日本に住みたい」という無数の絶賛の声に交じって「アメリカなら、子どもにも<sup>三</sup>奴隷のような仕事をさせるなど親たちは訴え始める

かも」という批判があった。外国からは特別に映る準備や片付けの作業は、しかし、家族の経済状態が問われず、みなが同じ作業をするという意味で、差別なき世界を意図せず実現していると言えなくもない。

第二に、家が貧しいこと(注一)のステイグマを子どもに刻印しないという鉄則。

給食一三〇年の歴史からこの問題は一度もハクラクしたことはない。萌芽期の給食は貧困層の子どもたちのみに与えられたが、この事実が暴露されると子どもの自尊心は深く傷つく。教育者も官僚も科学者もまずなによりもこのことを恐れた。そこで貧富の差が露呈せぬよう学校では衰弱気味の子には誰にでも給食が提供され、最終的には全児童に提供されるようになった。

第三に、給食は食品関連企業の市場であること。

教育学者の新村洋史は、一九八八年の段階で「給食は、人件費と食材費をあわせて年間一兆四〇〇億円のお金の動く大事業」と述べている（『学校給食の創造と人間形成』）。ここには、アメリカを代表とする農業大国や、多くの食品産業、食品卸業、農家の利益が直接に絡んでくる。調理器具も、食器も、冷凍食品も、小麦も、牛乳も、公的な給食は大企業に、場合によっては地域の小さな八百屋や魚屋や肉屋に支えられている。

家族以外の人びとと、貧富の差を棚上げして、食品産業のビジネスの場で、不思議な雰囲気醸し出しつつ、同じ時間に同じ場所で同じものを子どもたちが一緒に食べる。給食を囲む基本的条件をまずは知っておきたい。

といっても日本の給食史をマンゼンと眺めているだけでは、中途半端な概説史に イ。それを避けるためにも、とくに下記の五つの視角から給食史をとらえたい。

第一に、子どもの貧困対策という視角。

私は「子どもの貧困」と食をつなぐテーマとして最近全国に急速に広まった「子ども食堂」(注二)に注目していたが、それよりも給食が大事だと教えてくれたのが首都大学東京で社会保障論を教える阿部彩さんであった。著書『子どもの貧困』は、多くの読者の意識どころか国会までも動かし「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の法定化を促した。二〇一七年五月一九日、職場の市民講座「人文研アカデミー」の講演にお招きしたとき、阿部さんは、子どもの貧困に立ち向かう試みとして、子ども食堂の試みも尊いが、本丸は給食、とくに普及率が小学校よりも低い中学校給食であると強く主張した。給食はその誕生からずっと貧困対策であり、防貧対策であった。経済成長期以降、飢えはなくなったから給食を合理化せよという意見が強くなったが、そのと

きも含めて給食はずっと家で満足に食べられない子の唯一のまともな食事でありつづけた。

## 第二に、「災害大国の給食」という視角。

これまで給食は、教育や食糧や福祉の歴史の文脈で論じられてきたが、本書はそれに加えて災害史との関連を強く意識した。これは、鷹咲子著『給食費未納』という現在の給食研究の一つの到達点をつらぬくテーマと一致する。鷹は、歴史的に給食が災害と関わりがあったことと、東日本大震災以後給食施設の復興が遅れたことを指摘している。ここでの「災害」とは、基本的には地震や風水害であるが戦災も部分的に関連する。もともとの執筆計画では私は災害との関係について書く予定はなかったが、史料を収集整理しているうちに、関東大震災から現在もヒンパツする自然災害に至るまで、日本の給食は度重なる災害の経験抜きには発展しなかったことが分かった。災害と給食の関係。これには大きく分けて二点ある。給食施設のない不利益が災害によって白日のもとに晒されたこと。そして、給食施設とその調理員などの関係者が炊き出しの拠点になって被災者の救助に貢献したこと。どちらも一部をのぞいて先行研究では深く追究されてこなかった論点である。

## 第三に、運動史からの視角。

貧困児童を救うための給食の誕生、関東大震災後の給食の普及、敗戦直後の給食の試み、学校給食法の制定、センター方式の阻止、学校栄養職員や調理員の地位向上、僻地の完全給食普及、それらはすべて政治家や官僚や学者ではなく、教師、学校栄養職員、調理員、保護者、ジャーナリストたちの運動がなければありえなかった。それはもちろん、単なる民衆史ではないし、統一した運動を展開したわけでもない。だが、文部省や教育委員会や学者などエリート層にも給食の理想に生涯を捧げた人物が少なからず存在し、とりわけ敗戦後すぐの文部省の役人の語った理想は気高く、その人びともまた、給食の現場の運動と切れてはいなかった。

## 第四に教育史からの視角。

敗戦後、給食は主として文部省、現在は文部科学省の管轄になるが、それは教育政策の一環だからである。給食が教育の一環であることは一見あたりまえのように見える。だが、実は、これは切り離すべきだという議論も少なくない。給食の教育効果とはどのようなものか、これは古くて新しい問いだ。

そして第五に日本の給食史を世界史のなかに位置づけ直しながら考える、という視角。

学校給食の日本史は、ウ。ポーア戦争（一八九九年）がきっかけとなって法定化されたイギリスの給食、第一次世界大戦期（一九一四〜一八年）に七六万人の餓死者を出したドイツの飢餓、それに対し各国に援助を求めたハーバート・フーヴァー（のちのアメリカ大統領）のことは文部官僚も厚生官僚も栄養学者もよく知っていた。本書で取り上げるように、欧米各国で講演を請われるほど活躍したグローバルな栄養学者佐伯矩、戦前に欧米の給食の視察にまわった佐伯<sup>E</sup>モンカの原徹一、同じく佐伯の弟子で厚生官僚の大磯敏雄、そして敗戦後のG・H・Qの占領<sup>金田</sup>、ララ、リバック、ユニセフ（国連国際児童緊急基金）、アジア極東学校給食セミナー、国際的な学校給食の推進の動きや交流など、給食があらゆる世界的な現象の日本的な展開であることを忘れてはならない。

（藤原辰史『給食の歴史』による）

- （注一） 「ステイグマ」 …… 負の印象、ネガティブなイメージのこと。
- （注二） 「子ども食堂」 …… 地域住民や自治体が主体となって、無料または低価格帯で子どもに食事を提供する社会活動。
- （注三） 「センター方式」 …… 大型の調理場が複数の学校に給食を提供する方式のこと。
- （注四） 「ララ、リバック」 …… ララはアメリカの団体でアジア救済連盟のこと。ララ物資として、太平洋戦争後の日本向けに多くの食料や物資を援助した。リバックもアメリカから困窮世帯や児童向けに提供された援助物資を指す。

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A イツカツ

- ① 土地をブンカツする
- ③ 父にイツカツされる
- ⑤ 会議をソウカツする

- ② カツリヨクがみなぎる
- ④ 谷にカツラクする

1

B ハクラク

- ① 権利をハクダツされる
- ③ 多数のセンパクが入港する
- ⑤ 彼女はハクガクで何でも知っている

- ② 状況はセツパクしている
- ④ 観客にハクシュを求める

2

C マンゼン

- ① 諸国マンユウの旅にでる
- ③ コウマンな物言いをする
- ⑤ マンヨウシュウの和歌を読む

- ② マンカイの花々
- ④ 旅行をマンキツする

3

D ヒンパツ

- ① 長くセキヒンにあえぐ
- ③ 一日カイヒンにさまよう
- ⑤ ライヒンがあいさつをする

- ② ヒンシツを確かめて購入する
- ④ 入試でヒンシュツする漢字

4

E モンカ

- ① モンガイカン
- ③ 料理をチュウモンする
- ⑤ ゼンダイミモン<sub>の</sub>出来事だ

- ② わが家のカモン
- ④ 警察にジンモンされる

5

問二 空欄 ア・イ・ウ に入る最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

ア

- ① 普遍性
- ② 汎用性
- ③ 特異性
- ④ 関係性
- ⑤ 恣意性

6

イ

- ① 随ってしまう
- ② 膨張してしまう
- ③ 分散してしまう
- ④ 止揚されてしまう
- ⑤ 昇華してしまう

7

ウ

- ① 日本国民が議論すべき問題である
- ② 日本の社会制度の問題として考えておきたい
- ③ 日本人びとの努力によって紡がれてきた
- ④ 日本国内で完結する歴史ではない
- ⑤ 日本人の歴史を考えるうえでも重要である

8

問三 傍線部 (a)・(b) の意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

(a) 本丸

- ① 越えられない壁のこと
- ② 最も重要な中心のこと
- ③ 人が集まる場所のこと
- ④ 改革すべき弊害のこと
- ⑤ 修正したい誤りのこと

9

(b) 白日のもとに晒された

- ① 感動的な出来事により心が洗われること
- ② 誰もが知っていたことがあらためて公になること
- ③ 知られては恥ずかしい事実が暴露されること
- ④ 驚くような新事実が発見されたこと
- ⑤ 隠れていた物事が表に現れること

10

問四 傍線部(一)「給食の特徴は「強制」であり、選択肢の少なさ」とある。本文中に挙げられているその例として、当ては まらないものはどれか。 次の①～④の中から一つ選ぶ。

- ① 原則として何を食べるか自分では選べないこと
- ② どこで食べるかはほとんど選択できないこと
- ③ 摂取すべき栄養量があらかじめ計算されていること
- ④ 給食代金の支払い方については自分で選べないこと

11



問五 傍線部(二)〔給食の〕「基本的性格」とあるが、これに関連する内容を説明したもので正しいものはどれか。次の①～④の中から一つ選べ。

12

- ①給食は、家族以外の人と食べるという点で、アジアでは中国の習慣と酷似している。
- ②給食は、食品ビジネスと深い関わりがあり、日本では大企業がそれを支えている。
- ③給食は、その最初期には満足に食を得られない貧困層の子どもたちに与えられた。
- ④給食は、家の経済状況が反映されないという点で、弁当と同様の性質を持つ。

問六 傍線部(三)「奴隷のような仕事」で用いられている修辞法の名前を次の①～④の中から一つ選べ。

13

- ①擬人法
- ②対句
- ③倒置法
- ④直喩

問七 本文の内容と一致するものはどれか。次の①～④の中から最も適当なものを一つ選べ。

14

- ①佐伯矩は厚生官僚として欧米各国におもむき給食についての講演をするなどしてグローバルに活躍した。
- ②ドイツの飢餓をみかねて各国に援助を求めたフリーヴァーは日本の官僚や栄養学者にもよく知られていた。
- ③鷹咲子は著作のなかで、給食は年間一兆四〇〇億円以上のお金が動く大事業であることを指摘している。
- ④ロンドン在住のドキュメンタリー作家である佐竹敦子は日本の学校給食についての映像作品を製作した。

問八 本文の内容と一致しないものはどれか。次の①～④の中から一つ選べ。

- ①給食は文部科学省の管轄であり教育政策の一環であるが両者を切り離すべきだという意見もある。
- ②給食施設は災害時にも炊き出しの拠点となるなどして被災者の救助に貢献した事例が存在する。
- ③日本の学校給食は一八七三年に群馬県の富岡製糸場で実施されたのがその始まりであるとされる。
- ④給食の誕生から普及また栄養職員や調理員の地位向上などに人々の運動が果たした役割は大きい。

第二問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

きつと、誰かが間違っている。わるいのは、あなただ。(中略)

おやすみなさい。私は、王子様のいないシンデレラ姫。あたし、東京の、どこにいるか、ごぞんじですか？

少女の一日を一人称で描いた太宰治の有名な作品、『女生徒』(『文学界』一九三九年四月)の結末である。この毒を持つ可憐な主人公に萌えてしまう読者は多い。太宰はどうしてこんなに女性の気持がわかってしまうのか、と嘆息されることもしばしばである。話が脈絡なくあちらこちらに飛ぶのが、いかにも少女である……のらしい。彼女は、「いまの戦争が終った頃」に、パリ風のドレスをまとうことを夢想する戦時の少女でもあるはずだが、実際の女性たちと、何かを共有しているだろうか。まずは女生徒が何を語っているのかをみた上で、この虚構の少女と、現実の教養との関係をみていきたい。

『女生徒』の一日に詰め込まれるエピソードは多彩で、話が脈絡なく飛ぶような印象がある。人の思惑を気にしないあどけなさに<sup>A</sup>ホシロウされたい男性もいるだろう。だが実は、それぞれのエピソードは、かなりメン<sup>B</sup>ミツに構造化されていると言える。まず印象的なのは、大人と子どもの間で揺れ動き、居心地の悪い思春期のあり方である。大人と子どもが何において切り分けられているか、ばらばらにみえるエピソードが、それにどのように接続されているかを確認しよう。

主人公は、お母さんに頼りにされる大人になりたいと思ったり、小さい時の純粹さが失われていくのを愛惜したり、始終揺れ<sup>C</sup>ていて落ち着く暇がない。それというのも、客の応対をしている時のお母さんがそうであるように、大人とは、「自分の気持を殺して、人につとめる」こと、言いかえれば他人が望む自分像に合わせて本当の自分を見失うことだからである。「私」が他人の視線に敏感なのも、それと関係がある。人が見ていなければ、自分は自分のままに振る舞えるのだから。鏡に向かって、あるいは電車やバスの中で、先生の絵のモデルに立って、視力を失った従兄弟について、とにかく視線の有無が、至るところに書き込まれている。

「私」の洋服や髪形についてのおしゃべりも、だから、話の脱線などではない。ファッションに自分のこだわりはあるけれど、「洋服いちまい作るのにも、人々の思惑を考えるようになってしまった。自分の個性みたいなものを、本当は、こっそり愛

しているのだけでも、愛して行きたいとは思うのだけど、それははつきり自分のものとして体现するのは、おつかないのだ」とあるように、ファッションは、自分を他人にどう見せるかの問題だからである。「私」は外からは見えない下着に、薔薇の刺繡をつけて得意だが、「先生は、私の下着に、薔薇の花の刺繡のあることさえ、知らない」のだ。

しかしながら、こうした「ア」性は、「ほんとうに私は、どれが本当の自分かわからない」と、自分を見失わせる。本当の自分と、他人に良く見えるように演じた自分、しかも、見せる他人が複数になれば、その人の好みに合わせていろいろな自分を演じ分けなければならず、自分はいくらでもゾウシヨクするからである。こんな苦しみなら、現代の私たちも、よく似たものを知っている。<sup>(8)</sup>「私」がときどき、むしろたつた一つの方向を強制されたいと望むのは、こうした苦しさを逃れたいからに他ならない。

強制されたい気持ちについては、例えば、朝の電車の中で、「私」は「若い女の欠点」という雑誌の特集を読みながら、教育者などが、「右へ行け、左へ行け、と、ただ一言、権威を以て指で示してくれたほうが、どんなに有難いか」と述べている。また、軍隊にいる従兄弟のことを思っては、「うんと固くしばってくると、かえって有難いのだ」と軍隊生活を「爽快」と想像する。自分ではない何かに完全に服従することは、本当の自分や個性が失われる危機的状态である一方、際限のない自分の複数をみえずにすみ、自分というもの一つに決まって、いっそすつきりする。そして、結婚も、こうした強制力の一つである。

自分なんて、とても監獄に入れないな、と可笑しいことを、ふと思う。監獄どころか、女中さんにもなれない。奥さんにもなれない。いや、奥さんの場合は、ちがうんだ。この人のために一生つくすのだ、とちゃんと覚悟がきまったら、どんなに苦しくとも、真黒になって働いて、そうして十分に生き甲斐があるのだから、希望があるのだから、私だって、立派にやれる。

監獄、女中、奥さんが横並びなのは、家長長制によって、現在よりも妻が夫に仕えるものであったことを物語る。いずれにしても、(教育)(軍隊)(結婚)が、自分を縛りもするが自分の複数を止めてくれる「イ」的な意味を持っているのである。次の部分では、見られること―結婚―自分ではないものへの服従、のセットがケンチョだが、ここでは特に、それらが「本能」

という言葉でまとめられていることに注意しておきたい。

電車の中の皆の人にも見てもらいたいけれど、誰も見ない。この可愛い風呂敷を、ただ、ちょっと見つめてさえ下さったら、私は、その人のところへお嫁に行くことにきめてもいい。本能、という言葉につき当たると、泣いてみたくなる。本能の大きさ、私たちの意志では動かせない力、そんなことが、自分の時々のあることから判つて来ると、気が狂いそうな気持ちになる。どうしたらよいのだろうか、とぼんやりなってしまう。否定も肯定もない、ただ、大きな大きなものが、がばと頭からかぶさつて来たようなものだ。そして私を自由に引きずりまわしているのだ。引きずられながら満足している気持と、それを悲しい気持で眺めている別の感情と。なぜ私たちは、自分だけで満足し、自分だけを一生愛して行けないのだろう。本能が、私のいままでの感情、理性を喰つてゆくのを見るのは、情ない。

「本能」もまた、自分を見失わせるものであり、それに対する評価が「イ」的であるという点で、〈教育〉〈軍隊〉といったリストにつけ加えることのできる、強制力の一つであると言える。そしてそれにひとたび身を委ねれば、「理性」は消し飛んでしまうという。

放課後、キン子さんという友人と、ハリウッド（美容室）へ出かける部分を見ておきたい。最新のサロンに行つて有頂天になったキン子さんが、このままお見合いに行こうかと言いだし、結婚についての持論を述べたトタン<sup>F</sup>、「キン子さんは、全く無性格みたいで、それゆえ、女らしさで一ぱいだ」と「私」は急に厭になつて、彼女と別れてしまう。その後、バスに乗り、「いやな女のひと」を見る。

それに、ああ、胸がむかむかする。その女は、大きいおなかをしているのだ。ときどき、ひとりで、にやにや笑っている。

雌鶏。こっそり、髪をつくり、ハリウッドなんかへ行く私だって、ちっとも、この女のひとと変らないのだ。

けさ、電車で乗り合せた厚化粧のおばさんをも思い出す。ああ、汚い、汚い。女は、いやだ。

後者の「厚化粧のおばさん」は朝会ったのだが、「年よりのくせに厚化粧をして、髪を流行まきになっている」ところが、「あさましく、ぶってやりたいほど厭」なのであった。「私」は、女性が結婚のために男性の視線を意識することを、「雌鶏」のように「本能」に従うことで、「全く無性格」になることであり、しかしそうした状態をこそ「ウ」と呼んでいることがわかる。なるほど、「少女のまままで死にたくなる」わけである。大人の女性への成熟を拒否する「私」は、汚れなき（少女）である。

太宰にとつて、少女の一人称が必要だったことの意味は、よくわかる。太宰は、大人の男性の規範についていけなかった、もしくは大変批判的であった男性である。この章の冒頭に、作品の末尾を引用したが、あんなふうにつきばりと、すべての「あなた」を、つまりは社会を批判できるのは、王子様のいないシンデレラである少女が、まだ社会の一員ではないという自覚によるものだ。自分も社会に対して責任があるとすれば、自分も悪かったか、と思ってしまうのが普通だろう。少女とは、太宰の反抗を託す象徴なのである。

(中略)

『女生徒』は、いつまでも王子様のいないシンデレラであり、物を書く大人の女になることは決してない。職業を通して社会とつながるという意味での「教養」が万人に押し広げられながら、それを実践している女性を不可視にするために、理想としての少女が使われる。そうした構造を、『女生徒』は体現しているテキストである。

(小平麻衣子『夢みる教養』による)

問一 傍線部A・B・C・D・Eと同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A ホン|ロウ

- ①ホン|ガンを達成する
- ②自由ホン|ポウな精神
- ③ホン|ヤク家になる
- ④ムホン|を企てる
- ⑤ホン|ノウを断つ

16

B メン|ミツ

- ①メン|ザイ符を与える
- ②メン|セツ試験の当日
- ③メン|ルイをよく食べる
- ④メン|メンと連なる
- ⑤メン|ツに関わる

17

C ソウシ|ヨク

- ①国際シ|ヨク豊かな会場
- ②カシ|ヨクの典
- ③ソウシ|ヨク動物
- ④リシ|ヨクで儲ける
- ⑤イツシ|ヨク即発

18

D ケン|チヨ

- ①一|所ケン|メイ
- ②功績をケン|シヨウする碑
- ③彼はケン|ヤク家だ
- ④ケン|ジョウの美德
- ⑤ケン|トウを讃える

19

E ト|タン

- ①心情をト|ロする
- ②ト|シユ空拳
- ③帰国のト|につく
- ④再建をキト|する
- ⑤ト|コウを制限する

20

問二 空欄  ・  ・  に入る最も適当なものを、次の各群の①～④の中からそれぞれ一つずつ選べ。

①個 ②装飾 ③演技 ④複数

①積極 ②両義 ③家父長制 ④複数

①結婚 ②女らしさ ③厚化粧 ④いやな女

問三 傍線部（一）「話が脈絡なくあちらこちらに飛ぶのが、いかにも少女である……のらしい」とあるが、筆者が「らしい」としている理由について最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

- ①太宰がこんなにも女性の気持がわかってしまうことについて筆者はその理由が推測できないから。
- ②虚構の少女である彼女の気持は実際の女性たちと無関係であると筆者は考えているから。
- ③少女のあどけなさに惹かれるのは自分とは異なる男性読者の価値観だと筆者は考えているから。
- ④揺れ動く思春期のあり方が描かれており自分には失われていると筆者は考えているから。



問四 傍線部(二)「大人と子どもが何において切り分けられているか」とあるが、筆者は「大人」になることについてどう考えているか、最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

25

- ① 現実の教養を持ち母親に頼りにされるようになること。
- ② 幼い頃の純粋な気持を失っていくことを愛惜すること。
- ③ 自分の気持を殺し客の対応をするなど勤めに出ること。
- ④ 他人が望む自分像に合わせて本当の自分を見失うこと。

問五 傍線部(三)「私」の洋服や髪形についてのおしゃべりも、だから、話の脱線などではない」とあるが、どういうことか、説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

26

- ① ファッションは自分をどう見せるかの問題であり、自分のこだわりを持つのが大人であるということ。
- ② ファッションは自分をどう見せるかの問題であり、他人の視線を意識してこそ大人であるということ。
- ③ ファッションは自分をどう見せるかの問題であり、本当の自分を見失ってはいけないのだということ。
- ④ ファッションは自分をどう見せるかの問題であり、本当の自分のままに振る舞えるのだということ。

問六 傍線部(四)「私」がときどき、むしろたった一つの方向を強制されたいと望む」とあるがそれはなぜか、理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

27

- ①自分というものが複数の他人の前では分裂してしまうので、たったひとりになって本当の自分を取り戻したいから。
- ②自分以外の何かに服従することで、本当の自分を失うことよりも、一方的に強制される方が楽になれるから。
- ③何かに意志をゆだねることで、複数の自己を演じる必要がなくなって、自分をひとつの個性だと感じられるから。
- ④現代の私たちと同じように、本当の自分や個性が失われる状態を危機的状況であると考えているから。

問七 傍線部(五)「否定も肯定もない、ただ、大きな大きなものが、がばと頭からかぶさって来たようなものだ」とあるが、どういうことをたとえているのか、説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

28

- ①「本能」によって「理性」や「感情」が覆い隠され、本来の自分ではなくなってしまふということ。
- ②「本能」によって自分を見失い、いままでの「理性」や「感情」が失われてしまふということ。
- ③「本能」の力はあまりにも大きく、善悪を別にしていままでの自分とは異なってしまうということ。
- ④「本能」の大きさと力に圧倒されてしまひ、「理性」や「感情」を強制されてしまふということ。

問八 傍線部(六)「太宰にとって、少女の一人称が必要だったことの意味は、よくわかる」とあるが、どういふことを言っているのか、説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選べ。

29

- ① 太宰治は、男性社会に批判的であり、社会の規範に反抗する女性の立場に共感して作品を書いたということ。
- ② 太宰治は、社会の規範についていけないことから、社会の一員としての立場を放棄した女性を書いたということ。
- ③ 太宰治は、社会に対して責任を持たない立場の少女を描くことで、男性社会の規範に反抗したということ。
- ④ 太宰治は、大人の男性の規範に批判的であり、社会の一員としての自覚を持つことが出来なかったということ。

問九 本文の内容と合致するものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

30

- ① 太宰治『女生徒』に描かれたエピソードは多彩で、話が脈絡なく飛ぶような印象だが、大人と子どもの間で揺れる思春期のあり方が意識的に構成された作品である。
- ② 作中の「私」は、教育者の権威や、軍隊生活の規律など自分を縛るものに対して、本能的な反発心を抱いている。
- ③ 〈教育〉〈軍隊〉〈結婚〉という制度は、家父長制の下で女性を縛る権威として機能しており、それらに服従することは当時すべての女性の喜びであった。
- ④ 最新のサロンで髪の毛をセットしてもらおうという女性らしい喜びを、少女の「私」は理解することが出来ないでいる。
- ⑤ 主人公が、教養ある女性として成長することを拒否することで、『女生徒』は女性の社会化を批判的に描いている。

問十 太宰治の作品ではないものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

①斜陽

②青年

③人間失格

④津軽

⑤富嶽百景